

令和8年度 第1回金沢市DX会議 発言要旨

【日時】令和8年6月5日（金）16:00～17:00

【場所】金沢市役所第一本庁舎 405 会議室

○報告事項 「金沢市DXアクションプラン」の進捗について

※事務局より報告のみ

○議題 「金沢市DXアクションプラン2.0」の増補について

- 幅広い分野に対して、具体的なデジタル施策をリスト化し、計画としているのはよい。
- 金沢市のDXの取組がとても着実に広がっていることがわかる。

- 年は、和暦ではなく西暦で表記した方が市民にはわかりやすい。

- 生成AIは利用すべきである一方、個人情報やハルシネーションといった問題がある。

- 「金沢市デジタル工芸展」へのAI工芸アドバイザーの導入はどのようなものか。
→工芸を購入したい閲覧者の利便性向上を目的とした、試験導入である。
- データベースとAIの違いが曖昧になっており、定義を明確にした方がよい。また、工芸作家側の気持ちにも配慮した方がよい。

- 「金沢市公式HPへの生成AIの導入」はどのようなものか。
→既存のチャットボットは、職員が作成したQ&Aの回答を返すもので、Q&Aにないものは回答できない。生成AIにHPの内容を学習させ、キーワード等による検索をサポートする仕組みを検討している。

- 「eL-QRによる納付拡大」について、自治体間の導入時期の差が市民の利便性に影響するため、早期の導入を目指すべき。
→システム事業者の対応にもよるところである。

- KPIが設定されていることはよいが、生成AI等は手段であり、その活用の結果「何ができるようになったか」「何を求めるか」が現状では少し見えにくい。効果として現れるものを示せればさらによい。
- KPIに対し、その先のKGIを設定した方がよい。

● 今後は、技術導入だけでなく、市民や地域にどんな変化が起きたかを評価できる仕組みがあると、金沢らしいDXの価値がより見やすくなるのではないかと。

→すぐには難しいが、次回以降の会議でまたご相談したい。

● プラン掲載事業はわかりやすくまとまっているが、それらの取組は多くの部局、分野にまたがっていると思われる。市全体のDXの取組の中で、部局単位の分布を分析するなど、手薄な部分がないか検討するとよい。

→文化や芸術など、金沢市の特色とするため、強く力を入れるべき分野もある。今後の検討課題とする。

● 重点分野、金沢市として「ありたい姿」もわかりやすく確認できるとよい。

● 共創を重視するからには、DX推進により生み出されるデータをインフラとして、オープンデータ化や、庁内で連携して使えるような展開を進めていくのがよい。事業者にも委託する場合にも、仕様書にあらかじめ記載するなど。

→スモールスタートでご相談しながらやっていきたい。

● 技術を使う力だけでなく、情報を適切に見極め活用する力や、責任ある利用について学ぶ機会も重要。

● 専門人材だけでなく、市民1人1人がデジタル技術や情報を適切に理解・活用できる力の育成が求められる。

→「市立小中学校での「デジタル科」の実践」の中で、小中学生への情報リテラシー等の教育を行う。また、「かなざわスマートフォン講座の開催」の中で、デジタルデバイス対策も行っていく。

● プランに新規施策も多く盛り込まれている中で、今後のDX会議で議論すべき内容を明確化した方がよい。

→デジタルの「社会実装」に向け、市民の利便性向上、また今後はさらに共創のための環境整備の視点を重視していくべく、意見を賜りたい。

※「金沢市DXアクションプラン2.0」増補は原案に沿って策定として、委員了承。